

# シオンの子

第 36 号

2016.5.5



小学3年 男児 東京スカイツリーの前で はいポーズ

少心の野良で...

高校一年女児

私は学校に行くために電車を利用する。その時に、よく見かけるのが一人でいるお年寄りの方。お年寄りの方が、乗ってきた駅から自分が目的としている駅までずっと立っていた。私は座っていたので、声をかけてみた。

「大丈夫ですか？代わるので座ってください」と私が言うと、お年寄りの方は、「いつものことだから大丈夫よ。ありがとね」と笑顔で私に言った。

私は気になることがあった。それは、お年寄りの方が「いつものことだから」と口にしていったこと。お年寄りの方からすれば、その意味のままなのだろう。ただ電車の中には、優先席というものがある。

優先席とは本来、妊婦の方やお年寄りの方などが主に優先される席のことだ。それなのに若い人や中年の方たちが座ったまま、お年寄りの方や優先席を必要としている方の存在に気付かず、そのまま座っているケースが多々ある。

優先席に座ることは、悪いことではないと思うが、優先席を必要としている方がいたら快く代わるべきではないだろうか。

公共の場で恥ずかしいと思う人がいるだろう。でも、少し勇気を出すだけで、誰かの役に立つことができるのだ。相手から感謝されるのだ。

「ありがと」と言われて嬉しくない人はいないと思う。だから、人の前だろうと何だろうと私はこの「ありがと」と言われるような事を自分からできる人になりたい。

「ありがと」

私はこの言葉を聞くと、やって良かったと思える。それは誰だって同じだろう。だから、あなたも恥ずかしがらず行動してみよう。そうしたら、きっと言われるだろう。

「ありがと」という五文字を...

子持山学園「詩・作文コンクール」より

美しく逞しく

社会福祉法人  
子持山福祉会  
理事 名誉園長  
中澤文字

春になると毎年、幼稚園に行けるかしら、小学校に通学できるかしらと心配するのですが、行けるのです。おむつがなかなか取れなかった子も、入園時にはとれています。他の子と一緒に遊べなかつた子が遊べるようになります。先日迄幼稚園バスで通園していた幼児が、小学校へ集団登校できるようになります。大きなランドセルを背負って登校できるのです。

しら、あの子は中学生になれるかしらと心配するのは大人だけなのでしょう。二、三週間振りに逢うと大きくなつたねと驚きます。一晩毎にメキメキと伸びているのかもしれない。何時の間にか小学生らしい、中学生らしい、高校生らしい話し方ができるようになっています。集団の力、教育の力は素晴らしく目を見張ります。学園の職員学校の先生方の愛情のこもつたご指導ご努力に頭が下がります。

今年の成人式の日に三人の卒園生たちが、和服やスーツで晴姿を見せてくれました。皆それぞれ輝いていました。一人の子は中学校を卒業すると家庭復帰して、アルバイトをしながら高校を卒業しました。とても美しい着物を着てお母さんと一緒に来てくれました。二人共学園が大好きなのです。一緒に写真を撮りましょうと云われても、嬉しさと感動で私は涙と鼻水で顔がぐしゃぐしゃでした。子ども

球根の中には花は秘められ  
さなぎの中からのちはばたく  
寒い冬の中 春はめざめる  
その日、その時を ただ神が知る



「権利」と

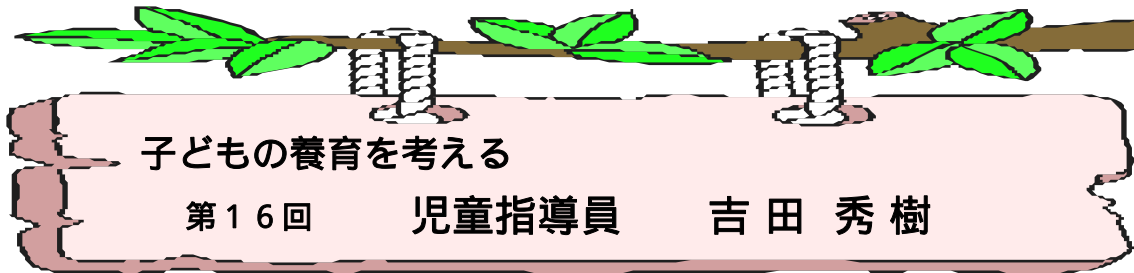
「義務」より

児童養護施設  
子持山学園  
施設長 望月栄一

「権利」と「義務」はセットで使われることが多く、表裏一体のものによく言われる。これについては様々な考え方があり、軽々に意見はいえないが、少なくとも児童養護施設に関わる者としてはどうか？

この言葉には、義務を果たさなければ権利は与えられない、義務は権利の条件である、という考えが見え隠れしている。しかし「子どもの権利」は子どもが義務を果たさずから与えられるものではないこと、もっと根源的なものであることは明らかであり、我々養育者はそれを守る責務がある。





## 子どもの養育を考える

第16回

児童指導員

吉田 秀樹

養育とは、養い育てることだが、それはある程度の収入（給料だけでなく、野菜などの食料）があれば、出来ると思う。確かに、買ってきた弁当や服を与えたりするだけでも子どもを養育することはできる。しかし、それで子どもを育てたと言えるのか。

最近、親が子どもに携帯電話のゲームをやらせている姿や、子どもは携帯型ゲーム機をやっている隣で親は携帯電話をいじっている姿をよく見かける。ひどい時には親の方が携帯電話に夢中になり、子どもが何をしているのかさえ見ていない時がある。時代が時代だから、仕方ないのだろうか。

前述した親は確かに養育はしているであろう。しかし、子どものことよりも自分のことを優先しているのではないか。大人が大人になりきれていない気がする。その割には子どもが悪いくらいことをすると、自分のことを棚に上げて叱る。自分ができていないのに、子どもに強いる。きちんと挨拶しなさい、お友達とは仲良

くしなさい、などと大人は偉そうなことを言う。なら、大人はその見本を見せ、「教育」しなくてはいけないと私は思う。

「教育」と聞くと、学校を思い浮かべる人がいると思うが、家庭での「躾」は子どもへの「教育」である。教える育てることが親の役

目であるのなら、大人が自分自身を見つめ直すことが必要ではないか。昔は、子どもができたなら、親になる自覚を持って、と言ったが、今は果たして…。子どもは親の鏡」というが、子どもは親が気づかないうちに親と同じことをするものだ。

もちろん、我々職員も児童福祉施設に入職したら、親になつたのと同じ自覚を持つべきである。施設職員も子どもの見本になる言動を取らなければいけない。私自身も子どもの見本になれているのか、自分を見つめ直し、もう一度子どもに向き合っていくことと思う。

### 学園を支えてくれる『ひび』

一年九ヶ月、学習ボランティアとして数学と英語を教えさせて頂きました。今まで家庭教師というものを経験した事がなかったので、教えるというより、私も苦戦しながら子ども達と一緒に悩みながら取り組みました。

子ども達のやる気は日によって波があり、なかなか思うようにモチベーションを上げ、やる気を起こさせる事が出来ずに戸惑う事が多かったです。時には宿題をやったにもかかわらず、教科書を置き勉なんて事も。

その為その日の様子に合わせて、休憩を多めに取ったり、問題の難易度を調整して取り組みました。また、私の振る舞い方でも子ども達の態度が変わる為、怠けている時は大きく太い声で話したり、なかなか問題が解けない時や分からない時は小さく優しい声で話したりと自身の雰囲気も変えて対応していました。

最初はお互い緊張していて、慣れてくると少し怠け出すような面もあり、時期によっても左右され

勉強を教える事とはいかに難しい事だと痛感しました。

私は社会人であり、普段は学校とは無関係の仕事をしています。学生時代に憧れていた家庭教師を社会人となった今、学習ボランティアとしてやらせて頂ける事がとても貴重であり、感謝の気持ちでいっぱいでした。

子ども達の学力を伸ばせたなんて、私の教え方では胸を張って言えませんが、私との勉強の時間を通して、子ども達が何か感じてくれたのであれば幸いです。学習ボランティアを通して、私自身も社会勉強、経験値アップとなりました。志望校に合格できる事を心から願っています。子ども達が勉強に真剣に取り組む表情。その表情が絶える事なく、楽しみながら勉強を進めていけたらきっと良い結果が待っているでしょう。今までありがとうとございました。

### 学習ボランティア

横澤 香



わかばホーム

田中絵理菜

桜の花も咲き、春の訪れを感じる四月。わかばホームでも、また一つ大人になった子どもたちが、今日も元気に過ごしています。そんな私も学園に来てから三年目の春を迎えました。

小学六年生になった丁君は、毎日「何か手伝わすことはある？」とたずねてきます。私が丁君と初めて会ったのは、丁君が小学四年生の時でした。当時の丁君は一つ下の男の子とよくケンカをしたり、嫌味を言ったりが絶えませんでした。それから二年が経った今では、ケンカをすること、相手を

嫌な気持ちにさせるような発言をすることは少なくなりました。それだけではなく、お手伝いをしてくれたり、年下の子に優しく教えてあげたりと、大きな成長を感じています。

時々子どもたちと関わっている中で、『本当にこれで良いのか』、『子ども達に何を伝えられているのだろうか』と思悩むことがあります。同じような毎日だけれども、全く違う毎日。そんな毎日だからこそつまずいたり、子どもから笑顔をもらったりするのだと思います。人生の中で最も大切な時期に関わること、近くで成長を感じられることに大きな幸せを感じています。これから子どもたちにも何かを与えることができ、子どもたちからも何かを学び、共に成長していける、そんな保育士になれるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。



シオンホーム

柳井 恵子

シオンホームでサポーター職員としてお世話になり、二年が過ぎようとしています。

春に小学一年生になるUちゃんは、おませでしっかりとした所があるのに、自分の思った事を話して伝えるのが苦手な、人見知りの女の子です。

「寝かしつけで同じベッドで寝るにはだいぶ時間が掛かると言います。」二年前、始めに言われた通り、最初の一ヶ月はベット下の床に横になり、Uちゃんが寝るまで待つという状態でした。次の半年は、ベット脇に座りうつむいて寝たふりをするように。また数か月してやっとベットに上半身だけ乗せてもらう事が出来たある日、Uちゃんがなかなか寝付けないようなので、「どうしたの？眠れないの？」と聞くと、「だつてUちゃん寝たら柳井さん

お家に帰っちゃうでしょ。」って。もう胸がキュンとして背中をトントンすると、「何でトントンするの？トントンしないで」って言うのです。私が息子達にしてきたあたりまえの背中トントンを、Uちゃんは嫌がるのがショックでした。嬉しい事に、今ではベットに乗って添い寝が出来るようになり、髪を撫で、背中をトントンしながら頭をくっつけて寝ています。「安心して寝てね。大丈夫だよ。」って、私の手の平からUちゃんに愛情が伝わる事を願いながら。寝息をたて、かわい寝顔に癒される私の好きな時間です。



浅田ホーム

鈴木まつみ

春  
二〇一六年三月  
冬と共に古い年度も終わりを迎える。

浅田ホームにも大きな変化がありそうな予感。

まず、二年間児童五人の生活だった浅田に新規入所A君が加入。久々の幼児さんは確実に新しい風をもたらしてくれる事でしょう。

その事で最も影響を受けるB君。六年間ホームの一番小さい子。何か失敗しても「小さいから」を免罪符にして来た。これからはそれが通用しないと分かっているのちよっぴり緊張している様子。

C君は小学六年生。最高学年。登校班や委員会等での責任アップ。

D君は新中学生。楽しみだけ想像できない生活に不安もいっぱい。

(次ページ続く)



E君は新高校生。電車通学で一氣に行動範囲が広がる。

F君は高校二年生。そろそろ卒業後の生活を考える。どの子にとっても大切なスタートラインだ。

それぞれのゴールに向かって、気持ちよくスタートできずようと祈りつつ…

私自身は先導車になろうか、休憩所になろうか、はたまた応援する観戦者になろうか。彼らとの暮らしの中で模索して行く事になりそうです。

楽しい一年になりますように。

今年度もよろしく願います。



まこと・めぐみホーム

石坂隼一

あつという間に、子持山学園にきて二年が経ちます。ここに来るまでは、児童養護施設の事は何も知りませんでした。二年が経ち一年の流れは、分かるようになってきました。めぐみホームでは、小学生四人と、高校生三人います。今まで、やってきて、自分が子どもたちにしてあげられる事は少ししかないと感じます。日々の、トラブルがあったり、子どもの学校での様子が全て把握しているわけではありませぬ。一人一人の子どもの甘え、わがままを全て一般家庭では許されている様な事でも、ここは施設な



ので制限があります。自分は子育てをした事が無いので、いろんな場面で壁にぶち当たります。それでも一年前と比べて、子ども達の成長が少しでもあれば、喜びに感じます。それが、仕事へのやりがいにつながり、また頑張ろうという気持ちも芽生えます。なので、子ども達の少しの変化や、成長を見逃さないよう、日々気を付けて共に生活、成長をしていきたいです。

最後に自分一人では出来ないの、これから職員間のベクトルを合わせて、子ども達を支援し、見守って行きたいです。

子どもたちから

うれしかったこと  
たのしかったこと

まこと(小二)

わたしのうれしかったことは、うしろこうざーじゅつとびです。今は一回しかとべないので来年は、もっと上手に、なりたいです。

めぐみ(小四)

ぼくはディズニーにいったことがたのしかったです。さいごのスプラッシュマウンテンのときはTくんのおがみえていませんでした。

のぞみホーム(高一)

僕の今年印象に残った出来事は、インフルエンザ一号になり、学校と学園のスキー教室に出れなかったことです。来年は健康第一!!

わかばホーム(高一)

今年うれしかった事は、資格がとれたことです。最初は、とれないと思ってたけど、がんばって勉強し、とることができました。

ほしホーム(小二)

わたしはディズニーランドにいったことがいちばんたのしかったです。みんなミニーちゃんになりました。またいきたいです。

ひかりホーム(幼稚園年中) みんなでアンパンマンミュージアムにいきました。アンパンマンとしゃくパンマンにあつて、あんばんをたべました。たのしかったです。

シオンホーム(高三)

同じ部屋の小さい子がいるなことをできるようになって、自分のことのように嬉しかったです。

浅田ホーム(中三)

僕は、ディズニーランドへ招待して頂き初めてとても楽しかったです。お土産を買っている時に、友人に会って、とてもびっくりしました。



# 活動報告

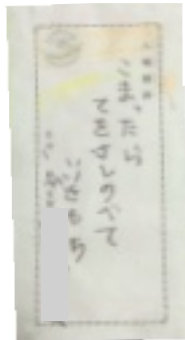
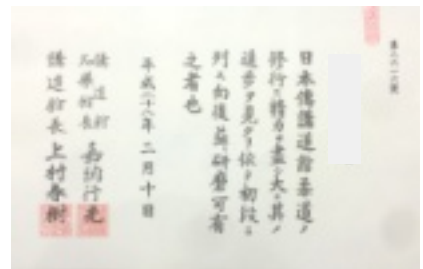
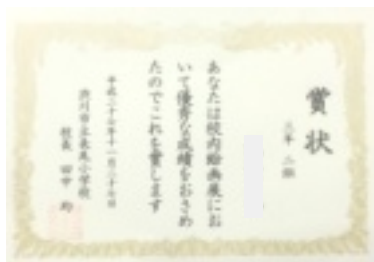
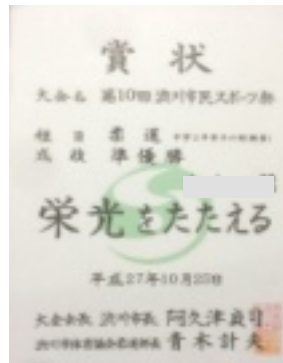
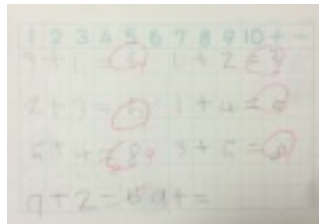
平成27年11月～平成28年4月

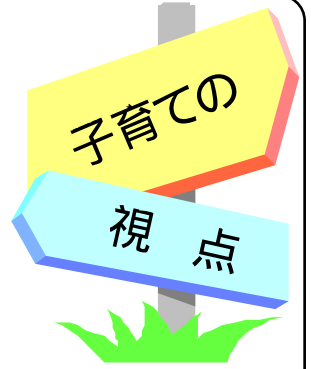
- ・ 自然体験会（山田昇財団主催）
- ・ Westie 招待（プロレス試合）
- ・ 七五三撮影
- ・ （高崎和田フライオンズクラブ主催）
- ・ 渋川教会コスベルコンサート招待
- ・ お餅つき（善行会）奉仕
- ・ 育成会クリスマスマス会
- ・ 教会クリスマスマス会
- ・ 学園クリスマスマス会
- ・ 子持山学園「詩・作文コンクール」
- ・ 年末年始の帰省
- ・ 道祖神祭り（どんど焼き・地域行事）
- ・ 成人式（卒園生が来てくれました）
- ・ 地区カルタ大会
- ・ 学園スキー教室、そり遊び
- ・ 卒園生お祝いの会
- ・ （伊勢崎ロータリークラブ主催）
- ・ 節分
- ・ 市、県縄跳び大会
- ・ 卒業生にエールを贈るコンサート
- ・ (NPO Mother of Paris主催)
- ・ イースター（早天礼拝）
- ・ 卒園児童 壮行会（激励会）
- ・ じゃがいも植え付け
- ・ 渋川中央ライオンズクラブ食事会へ奉仕
- ・ 県ALT交流会

その他、多数の招待、寄贈、  
「奉仕などに感謝」

平成二八年四月入所児童状況

- ・ 幼児 八名
- ・ 小学生 一七名
- ・ 中学生 九名
- ・ 高校生 一六名
- 計五〇名





平成二十七年十一月に二泊三日で表記の研修に参加してきました。

今回の研修の主題として「小舎制養育の新たな道筋とその展望」として、社会保険労務士の方から労務のあり方のお話を聞き、各分科会に分かれて、「当たり前の生活とは」を話し合い学んできました。

始めに小舎制の新たな道筋とその展望という基調講話をして頂きました。その中では、今の養護施設は、戦後とは違い戦災孤児ではなく、虐待防止への対策としての土台になっています。そのため、発達に問題を抱えた子、コミュニケーションが上手くとれない子が増え今までの対応だけではなく、専門的な知識も必要になってきていますが、職員の質は変わっていません。職員もより専門性が必要になってくること。そして、当たり前前の生活をしてこなかった子、ま

子は育て直しから行わないと難しいこと、虐待体験や分離体験には「マイナス」からの育て直しが必要という覚悟のもと、私たち大人が「当たり前前の生活」の構成員になっていく必要があると信賴の形成ができる事を学びました。

**小舎制養育研究会 総会・研修会**  
**第37回 金沢大会**

**主題 小舎制養育の新たな道筋**  
**～小舎制養育の実践に求められるもの～**

次に労務士の方より、労務管理の講話をしていただきました。児童養護施設の現状、二十四時間三百六十五日子どもの安心安全を守るのは今の職員体制では難しいこと。若い世代に対する労務のありかた、ほしい物のために頑張る世代ではなく、理念

は変わっていないが、働き方は時代と共に変わってきていることを学びました。

各分科会に分かれて、「当たり前前の生活とは？」について話し合いました。

「当たり前前の生活」は定義されていない。一人一人の考え方は違い、それぞれが感じた事をすりあわせる。衣食住がしっかりしているのは勿論大事なことが、情緒、感情、目に見えない所が大切であり、安定にもつながる。

今後時代とともに、よりいっそう小規模化が推進されていくが、施設としての一本の道筋をもつことが大切です。

今後、子持山学園も全てのホームが小規模になります。その中で、子どもに合ったニーズに職員が合わせられるように、より専門的、基礎的知識をもっていかなければいけないと思えました。

**保育士 丸田舞華**



小舎制養育研究会第二回会員研修会仙台大会

に二日間参加させて頂きました。丘の家子どもホームで研修を行い、「基調講演」「パネルディスカッション」「生活場面体験」「グループ討議」という内容でした。一日目生活場面体験という事で、ホームの子どもと一緒に食事をとりました。食事は職員が調理しており、品数は多く、栄養も考えており、とてもバランスの取れた物でした。

二日目のグループ討議では七人八人で意見交換をしました。小舎制という題目の中で割と自由な話ができて、討議中の主な話は小舎で仕事をするにあたって同じグループの職員とどのようにコミュニケーションをとっているのか、という内容でした。週一で話す場面を作る、ノートを使う、定期的にグループで飲みに行く、などでした。

特に頭に残っている意見では、「誰の味方でもない職員を一人」職員同士の緩衝材になり、場を作り、あいだをとりなす人、

人の話を聞き、否定せず、どちらにも肩入れをしない。そのような職員に徹することで職員同士の関係を良好にできるという話をされていました。また「正直やりたくはない位置、ただこれをやることで良好ではない関係のあいだに入ってくれる職員が増えることを考えてやっている」と話されていました。

私には考えつかない内容だった事もありとても印象的でした。今回の研修は正直私にはとてもハードルの高い研修でした。しかしこのような自身の刺激になる研修を受ける事により、子どものために、また、自身の能力の向上のためにより努力できればと考えを改める事のできる良い研修でした。

**保育士**

**森田大介**



お心遣いに感謝致します

(15・11・16・4) 敬称略・順不同

寄付金

中村光孝、狩谷智治、木村三都子、大塚廣末、飯塚由美、望月栄一、吉岡町更生保護女性会、ビデオアルハム協会、島村美也子、大橋栄六、豊田誠、海野千鶴、石北医院、ミート星野、渋川教会、中澤文子、島田卓爾・昌子、サニクリーン、森英明、室伏仁、渋川皮膚科医院、山口道子、小野澤昇、日本キリスト教団群馬地区婦人部、更生保護女性会小野上支部、斉藤医院、国際ソロプチミスト高崎、布施英俊(毎月建設)、櫻の美、坂野昇、上富坂教会、山田昇記念財団

寄贈物品

並木なつ江、梅澤美香、今井真、カルビト(株)東本支店高崎営業所、柿村弘之、樽林律子、田中和博、中澤達雄、全国シヤンメリ協同組合、旭石材工業(株)、横尾円、(株)プレナス、島田卓爾、岩倉克治、釘島総合法律事務所、佐藤洋司、子持公民館、日本鏡餅組合、海野由美子、日本出版販売(株)、水澤亭、佐藤かずこ、堀川愛生園、竹之内邦仁、(株)アベックス、熊本ちい子、井上良晴、東和銀行従業員組合、天野貞利、宮崎裕、渋川青翠高校食物クラブ、家庭クラブ、金子誠、毎日新聞東京社会事業団、小政崎、丹羽稔、石北医院、国際ソロプチミスト高崎、インターマリジヤパル(株)、コラポレシヨン山崎健一、高橋春美、萩原潤、小坂穂志津、池田雅子、清水こず江、高岡孝志・はるみ、(株)原田ガトーフエスタハラ、夕原田義人、金子香奈江、合同会社文屋、上原淳子、小金静江、茂木蓮、李雪娥、呉宝烟、中島久美、後藤幸男、坂本香織、大淵明日香、(有)タスカジャバンクアウモック、大塚令子、南澤建設、金井秀夫、浜亮太、群馬ヤクルト販売(株)、小野里和幸、野村繁雄、堺商店、高橋光成

匿名の方、他各位

ボランティア

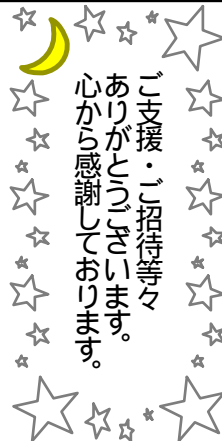
児童交流、須藤いづみ、ベビーマッサージ、林、弘子、ハンドマッサージ、竹之内邦江、書道、山口道子、大塚廣末、絵画教室、ピノキオ絵画教室、学習、群馬県青年赤十字奉仕団、横澤香、福本亜美、ピアノ、鈴木音楽教室(渋川市)、カットボラ、髪切美匠、飯塚真介、畑作業、篠原徹

掲示板

・苦情解決報告 計一件

(平成二十七年十一月~平成二十八年三月)(内容)職員の子どもに対する態度を改めてほしい(結果)園長より職員に注意、他職員にも注意喚起

・県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」普通自動車免許取得のため一名の高校生が一入二十万円の支援(配分)を受けました。県民の皆様の善意に感謝します。



ご支援・ご招待等々、ありがとうございます。心から感謝しております。

・(株)ニラク様(渋川有馬店、渋川白井店)毎月2と9の日に菓子沢山のプレゼント。

・渋川ロータリークラブ様 子どもたちが大好きなディスプレイランドに連れて行ってくれました。皆さんの温かな配慮のおかげで楽しい思い出ができました。

・山田昇記念財団様 学園所有の車にドライブレコーダーを頂き、取り付けまでして頂きました。

・渋川中央ライオンズクラブ様 年度の初めに園内で食事のご奉仕。おでん、焼きまんじゅう、フランクフルト、甘ねじなど美味しい料理を頂きました。

・高崎和田ライオンズクラブ様 七五三写真撮影のご奉仕

・県内A.L.Tの皆様 他国の方々と異文化交流(十回目)イースターにちなんだゲームや歌で笑顔や笑い声が沢山でした。



高橋光成様(西部ライオンズ投手・右写真)クリスマスプレゼントでグローブの寄贈。子どもとの触れあいの時間ももってくれました。試合での活躍を祈念しています!!

・日本善行会群馬県北毛支部様 毎年恒例、白と杵でお餅つきのご奉仕。

・JR東芳組高崎地本様 文化祭や映画祭への招待など多くの行事に参加させて頂いています。

・高岡孝志・はるみ様 キーボード二台(新品)やゲーム機の寄贈。園行事に演奏などで活躍しています。

・灯屋煙火店様 クリスマスイブの澄み切った夜空に、大きくてきれいな花火のプレゼント!! 思いがけない贈り物に感謝、感動、感激!! 国際ソロプチミスト高崎様 大学進学の子に温かな支援を賜りました。

・群馬県児童養護施設連絡協議会や群馬県等に寄付・寄贈を頂き、県内の各施設に配分されております。皆さまの温かなお心遣いが届いております。以下お名前のみ紹介しませう。多くの匿名の皆様(衣類、おもちゃなど)・木村会計事務所様(図書券、寄付金)・群馬県遊技業協同組合様(寄付金)

・お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

北極星

私は今年度も幼児のいるホームを担当する事になりました。学園の幼児達は少しも目が離せないくらい活発で、毎日とても賑やかです。そんな中でまだまだ経験が浅い私は忙しさに追われ、気持ちに余裕が持てず表情に出してしまう事があります。そんな時、幼児の面倒を見たり、家事を手伝ってくれる中高生。私が慌ただしくしていると、それを察したのか「今日はいいい子でいるよ。喧嘩しないよ。」と彼女達なりの優しさを見せてくれる小学生。子どもは職員の間で感じさせられ、「気を遣わせちゃったね、ごめんね。」と胸が痛くなります。ちよつと疲れた顔をしているとすぐに気がき、とても心配してくれる優しい子ども達ばかりです。そんな優しい子ども達がいっぱい笑顔でいられるように、自分も笑顔を絶やさず明るいホームにしたいです。

(松尾鈴香)



幼児さん 春のピクニック - 渋川スカイランドパーク -